

**オムロン株式会社 2014 年度 1Q 決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)
(2014 年 7 月 29 日、東京)**

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 戦略投資は年間で 30 億円増やす計画だったが、計画に変更はないのか？また、1Q の進捗は？

A: 年間計画に変更はない。1Q では年間の約 20%程度を執行した。

Q: 上期上方修正、通期据え置きは下期下方修正のように見えるが、期初時点と比較して下期の見通しは変わっているのか？

A: 通期から上期を引き算して下期の見通しを考えるのは誤解。現時点では下期の悪化要因はなく、下期の見通しを下方修正した意図はない。通期でも上ぶれ可能性が高いが、上方修正するレベルまで至っていないので通期を据え置いた。

Q: ガバナンスにおいて執行側と取締役会で意見が割れた際にどちらが優先されるのか？

A: 事業執行は社長を中心に執行側で権限を持っている。取締役会決議事項の場合は取締役会で決定する。

Q: 女性が活躍する機会は増えているのか？

A: 今でも育児休職、再雇用の制度、託児所を作るなど女性が働きやすい環境は整備している。但し、現時点では女性の管理職の比率が低いなど、課題はある。時間はかかるが、女性の活躍の機会を増やしていきたい。

◆ 制御機器(IAB)関連

Q: 1Q は中国におけるスマホ向け設備の需要が好調とのことだったが、2Q 以降に減速するリスクはあるのか？

A: スマホ向け設備の需要は 2Q 以降に一服すると見ている。一方で、自動車向けなどが堅調に推移すると見ており、トータルでは 2Q 以降もそれほど落ち込まないと読んでいる。

◆ 車載事業(AEC)関連

Q: 上期の売上を上方修正するのに、営業利益を据え置く理由は？

A: 南米における GP 率(売上総利益率)を少し厳しく見ており、営業利益の見通しを据え置いた。改善策を立てて対応している。

◆ ヘルスケア事業(HCB)関連

Q: ロシアの状況は 2Q に入って改善してきているのか？

A: 東欧などの混乱は続いており、2Q も厳しい状況と見ている。

◆ その他事業関連

Q: その他事業を構成しているサブセグメントの 1Q 実績の売上比率は？

A: 環境事業が約 35%、バックライト事業が約 50%、残りは電子機器事業とマイクロデバイス事業。

Q: 環境事業、バックライト事業は上期から下期にかけて、売上見通しに変化があるのか？

A: 環境事業は 1Q、2Q と好調が継続するが、下期はやや落ち着くと見ている。バックライト事業は徐々に生産能力を上げているので、下期の方が売上拡大すると見ている。
